

平成30年1月28日放送



風疹にご注意を！

JA とりで総合医療センター 感染管理認定看護師 藤原文子

司会者：今年に関東を中心に風しんが流行していると聞きました。風疹とはどのような病気なのか教えてください。

藤原：風しんは、風しんウイルスによっておこる感染症です。潜伏期間といって感染してから症状が出るまでの期間は2～3週間ほどあり、発疹などの症状が出る1週間前から発疹が出た後1週間くらいまでの間、他の人にうつす感染力があるとされています。麻しんや水ぼうそうほどではありませんが、感染力が強く1人の患者さんから5～7人にうつしてしまいます。風しんウイルスは咳をするときに出る唾液のしぶきの中にまぎれていて、それを吸い込んだりすることで感染します。症状は発熱、発疹、咳、リンパ節の腫れ、関節痛などがあり、ときには合併症として脳炎や血小板減少性紫斑病など入院を要する場合があります。大人が感染した場合には子供が感染した場合に比べて、合併症が無くても発熱や発疹の期間が長かったり、関節痛がひどかったりすることがあります。また妊娠20週頃まで（特に妊娠初期）の妊婦さんが風しんにかかると、お腹の中にいる子供も風しんウイルスに感染し先天性風疹症候群となる可能性もあります。

司会者：赤ちゃんにも影響してしまうのですね。先天性風しん症候群についてもう少し詳しく教えてください。

藤原：先天性風しん症候群は、妊娠初期の妊婦さんが風しんにかかることで、お腹の中の子供も風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、精神・身体の発達の遅れなどの障害をもつ可能性があります。これらの障害を先天性風しん症候群といいます。先天性風しん症候群の赤ちゃんがすべての障害をもつとは限らないので、障害があると気づかれるまでに時間がかかることもあります。この先天性風しん症候群が起こる可能性は妊婦さんが風しんにかかった時期によって異なります。特に妊娠初めの12週までに風しんにかかると、先天性風しん症候群が起こる可能性が高いことが認められています。

司会者：赤ちゃんを先天性風しん症候群から守るために、風しんにかからないようにしなければいけませんね。それでは風しんの予防方法について教えてください。

藤原：風しんの予防には予防接種が最も有効な方法です。風しんワクチンは1回接種すると約95%の人に免疫ができ、2回接種するとさらに多くの人に免疫をつけることができます。

司会者：風しんのワクチンは妊娠中にも受けることができますか？

藤原：風しんワクチンは妊娠中に接種することはできません。接種をする場合には、妊娠をしていない時期にワクチン接種をする必要があります。またワクチンによる影響が懸念されることから、ワクチン接種後2ヵ月間は避妊が必要になります。

司会者：妊娠中に風しんの抗体がないとわかった場合にはどうしたらいいのでしょうか。

藤原：すでに妊娠をしている場合にはワクチン接種ができませんので、風しんが流行している地域では可能な限り外出は避け、やむを得ず外出する際には人ごみは避けていただくなど、風しんに感染しないように注意していただきたいと思います。

司会者：女性はあらかじめワクチン接種をして予防することが重要なのですね。

藤原：はい。ただし女性だけがワクチン接種をすれば良いということではありません。男性でも予防接種を受ける必要があります。現在は小児に定期接種として2回の麻しん風しん混合ワクチンが実施されていますが、以前は女子中学生のみに風しんワクチンの接種が行われていました。しかし、男の子でも風しんに自然感染した場合には、妊娠中の母親に風しんをうつす可能性がありますし、大きくなってからは自分の配偶者や職場の同僚などに風しんをうつす可能性があります。平成28年度の感染症流行予測調査では20代から30代前半の男性の10人に1人、30代後半から50代男性の5人に1人は風しんの免疫を持っていなかったという結果も出ています。現に、今年度の茨城県内の風疹患者の多くは20代から50代の男性です。このことから男性が風疹ワクチンを受ける必要性を実感していただけるのではないのでしょうか。

司会者：男性も女性もワクチン接種をして予防することが大切なのですね。風しんにかかったことのある人もいると思いますが、その場合、ワクチンの接種は必要ないのでしょうか。

藤原：風しんにかかったという記憶のある人たちの中には、風しんに似た他の病気であったり、記憶違いであったりということも考えられます。風しんにかかった記憶だけの場合や病院に受診しても症状だけからの診断では必ずしも信用できません。血液検査で風しんの抗体検査を受けてご自身の抗体価を確認した

り、これまで風しんの予防接種を受けたりしたことがない場合はワクチンを接種することをお勧めします。

司会者：風しんの抗体があった場合にはワクチンを受けてしまうことで副作用が出たりはしないのでしょうか。

藤原：過去に風しんにかかったことがある人やワクチン接種をしたことがあってすでに免疫を持っている人でも、風しんのワクチン接種によって特別な副反応が起こるなどの問題が起こることはありません。むしろ風しんに対する免疫をさらに強化する効果が期待されることもあるのでより安心だと思います。

司会者：風しんのワクチン接種を受ける費用について教えてください。

藤原：定期接種の年齢（1歳と小学校入学前1年間の幼児）の場合には、原則的に無料または一部自己負担になります。これは各自治体によって異なります。定期接種以外の年齢の方がワクチン接種を行う場合には自己負担になりますので、接種を行っている医療機関に問い合わせただけだと思います。

司会者：風しんの予防にはワクチン接種をすることが重要ということがわかりました。

藤原：はい。風しんはワクチン接種で予防できる感染症です。小児では2006年度から2回の定期予防接種として、麻しん風しん混合ワクチンの接種が実施されるようになりました。また医療従事者をはじめ徐々に大人も風しんワクチンを接種する人が増えてきています。近年、風しんは海外で感染を受けて帰国後に発症し、周りの人にうつしてしまうという例が多くなってきていますから、大人にも風しんワクチンの接種をしていただきたいと思います。自分を守るだけでなく、家族や周りの人を風しんとその合併症から守り、そしてこれから生まれてくる赤ちゃんを先天性風しん症候群から守るために、積極的に風しんのワクチン接種を受けて社会全体で風しんを予防していくことが必要だと考えます。